

## 2 【視点2】教材、場づくり・教具の工夫

### 【教材、場づくり・教具のポイント】

- ① 学習内容定着のための教材、教具等の工夫  
運動の特性、児童の実態、身に付けさせたい学習内容から、その学習内容をより効果的に身に付けさせることができるような、必然性のある、教材、場づくり・教具を工夫する。
- ② 児童が生き生きと活動するような場づくり・教具等の工夫  
運動に対して苦手意識をもっている児童も、意欲的に運動に取り組めるような、教材、場づくり・教具を工夫する。

～第2学年「チームで一致団結！ボール投げをマスターして、うばわれた宝をとりもどせ！」(E ゲーム ア ボールゲーム)～





### (1) ストーリー性をもたせた教材の開発

児童の意欲を引き出し、ボール投げの技術を高めることを目的として、「ボールの国に住んでいる王様から手紙をもらい、怪盗に盗まれてしまった宝を取り戻すために王様を助けることを目的として、ボール投げのミッションをクリアしていく」というストーリー性を持たせた。毎時間、ミッションをクリアしていく中で、ボール投げのコツを見つけ、王様へアドバイスするという流れで行った。

### (2) 基礎を養いながら学習内容の定着を図る4つの場の設定

スイッチオンタイムの後、めあてを確認し4つの場をグループ毎にまわりながら、ボール投げ、ボールキャッチの基礎が身につくようにした。

#### 【4つの場】

恐竜をたおせ		<p>○壁の的にむかってボールを投げる</p> <p>小さめのやわらかいボールを使用。ろくぼくに的をつりさげる。的は以前作られたものを活用し、狙う場所を矢印で示して使用した。</p>
がけをくずせ		<p>○段ボール箱の的にむかってお手玉を投げる</p> <p>段ボール箱で作った的をねらって、お手玉で段ボール箱を落とすようにした。ボールの数が限られていることもあるが、的をねらって投げることを意識して行かせた。</p>
宝箱ゲット		<p>○宝箱にむかってお手玉や「てるてるボール」を投げ入れる</p> <p>宝箱の中に入れることができるようにする。お手玉だけでなく「てるてるボール」を使うことで、投げる時のフォームも意識させるようにした。</p>
ふわっと届け		<p>○ネット越しにボールを投げてキャッチする</p> <p>支柱2本とゴムでネットを作り、場を作る。ゴムには鈴をつけて相手がキャッチしやすいボールを「ふわっと」投げることを意識できるようにした。ゴムの高さも徐々に高くしていった。</p>